

4月3日 マルコによる福音書 10章 32～45節 今日の説教から  
説教題：「十字架の勝利」

今日の聖書箇所には、イエス様たちがガリラヤ地方での伝道を終えてエルサレムに向かっている途中の出来事が記されています。ここまでイエス様は、既に2度弟子たちに対して受難の予告をしてきましたが、彼らはまだその真意を理解してはいませんでした。イエス様は「異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する」と、十字架における死と三日目の復活をここで予告していますが、弟子たちはそれを理解せず、35節以降で「私たちの願いをかなえてください」とイエス様に詰め寄りました。

彼らの旅がエルサレムに向かっているからこそ、弟子たちは「イエス様はエルサレムで王様になる」という栄光の結果が待っていると思っていました。彼ら12人の弟子たちを連れて、イスラエルの12部族を束ねる王のように、イエス様がすべての民を導く王になると思っていたのです。彼らの無理解はイエス様の栄光や十字架だけではなく、イエス様の飲む杯、洗礼についても同様でした。その杯は決して「勝利の美酒」のように甘く心地よいものではなく、苦しみと屈辱の死によって彩られる「敗北の苦汁」であることを彼らは理解していませんでした。

彼らの考えが見当違いであることを教えるために、41節以降でイエス様は「この世の支配」と「天の国の支配」が全く異なる法則によって成り立っていることを語ります。この世の支配者たちはその国の民を権力によって支配して威張っていますが、天の国ではそうではありません。一番偉くなりたい者はすべての人の僕にならなければなりません。偉くなるためには支配する側に立つのではなく、誰よりも率先して人々に仕える必要があるのです。

イエス様は、その模範としてこの世に遣わされてきました。誰よりも尊い神様の子であるイエス様は、満足な寝床もない馬小屋の飼葉おけに生まれました。私たち人間が仕えるべき主であるイエス様は、その人生を玉座でふんぞり返るのではなく、人々の間を歩き回り、その足で福音を宣べ伝え続けました。そして、人々を救いに導くためにこの世に使われたイエス様は、進んで十字架という死へと歩いていったのです。自分は何の罪もない身分でありながら、私たち人間の罪を贖うために、イエス様は「多くの人の身代金」としてその命を燃やし尽くしたのです。このイエス様の愛は、私達キリスト者にとって模範となるべき愛です。自分自身のことを優先するのではなく、いつも神様の御心を第一に考えるその姿は、私たちが一生をかけて追い求めるべき愛の姿なのです。

十字架における死、つまり当時の価値観における「屈辱的な敗北」は、「十字架の勝利」へと変えられました。私たちが誰かのために命を燃やしつくすのであれば、私たちはその命を、天の国で確かに得ることが出来るでしょう。逆に、私たちが今、隣人の持ち物を手に入れようと躍起になれば、わたしたちからはありとあらゆるものが取り上げられるのです。奪う者はすべてを奪われ、奪われる者にはすべてが与えられます。そして、悲しむ者は喜ぶものとされ、失う者には存分に神様によって満たされる者にされるのです。その驚くべき希望があるからこそ、私たちは失うことをただ恐れたりはしません。神様が報いてくれることを知っているからこそ、私たちは時に大胆に信仰の道を歩むことが出来るのです。その喜びを胸に、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 10 章 32～45 節

- 32:一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。イエスは再び十二人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して異邦人に引き渡す。異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する。」
- 35:ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、二人は言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」イエスは言われた。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか。」彼らが、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ。」
- 41:ほかの十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て始めた。そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」